高等学校学習指導要領における地理科目の改訂の方向性として考えられる構成（たたき台案）

平成２８年３月４日
教育課程部会社会・地理歴史・公民ワーキンググループ　資料６

構成原理

「地理総合（仮称）」は，主題を基に課題解決的な学習により，社会で生きて働く地理的実践力の育成の場として，「新選択科目」は，地理総合で習得した地理的な技能，見方や考え方を基に，世界の諸事象の規則性や傾向性などを系統的に，世界の諸地域の構造や変容などを地誌的に考察した上で，現代日本に求められる国土像の在り方について展望することにより，高等教育での学びにも繋がる本格的な地理的探究の場として構成する。

現行地理B科目

地理B

(1)様々な地図と地理的技能
- ア　地理情報と地図
- イ　地図の活用と地域調査

(2)現代世界の系統地理的考察
- ア　自然環境
- イ　資源，産業
- ウ　人口，都市・村落
- エ　生活文化，民族・宗教

(3)現代世界の地誌的考察
- ア　現代世界の地域区分
- イ　現代世界の諸地域
- ウ　現代世界と日本

移行

拡充

資質・能力

既得の　地理的な技能，世界のグローバル化や持続可能な社会づくりといった考え方など　を踏まえて

○世界の空間的な諸事象の規則性，傾向性や，世界の諸地域の構造や変容についての理解　など

新必履修科目で身に付けた学習の成果を活用し，探究を深める科目

○世界の諸事象を系統地理的に考察する力や，世界の諸地域を地誌的に考察する力　など

○世界や日本の望まれる国土像や地域像の構築のため，進んで参加し貢献しようとする態度　など

新必履修科目「地理総合」（仮称）

(1) 地図と地理情報システムの活用

(2) 国際理解と国際協力

(3) 防災と持続可能な社会の構築

新選択科目（案）地理に関わる探究科目

(1)現代世界の系統地理的考察　事象からのアプローチ

ア 自然環境　イ 資源，産業　ウ 人口，都市・村落
エ 生活文化，民族・宗教　オ 観光，交通，通信等

⇒系統地理的に事象の規則性や傾向性などを考察する。
⇒それぞれに環境問題，食料問題などの関連諸課題を追究する。

(2) 現代世界の地誌的考察　地域からのアプローチ

ア　現代世界の地域区分

⇒地域の概念，地域区分の意義を考察し，実際に地域を区分する。

イ　現代世界の諸地域

⇒地誌的に地域の構造や変容などを考察する。
⇒地域ならではの諸課題と地球的課題の関連性を追究する。

(3) 現代日本に求められる国土像　総合的な地理的アプローチ

⇒現代世界における日本の国土の特色について多面的・多角的に考察し，我が国が抱える地理的な諸課題を探究する活動を通して，その解決の方向性や将来の国土の在り方などについて展望する。

高等学校学習指導要領における地理科目の改訂の方向性（たたき台案）

平成27年12月21日
教育課程部会高等学校の地歴・公民科科目の在り方に関する特別チーム
資料4

現行地理A科目

地理A

(1)現代世界の特色と諸課題の地理的考察

ア　地球儀や地図からとらえる現代世界
イ　世界の生活・文化の多様性
ウ　地球的課題の地理的考察

(2)生活圏の諸課題の地理的考察

ア　日常生活と結び付いた地図
イ　自然環境と防災
ウ　生活圏の地理的な諸課題と地域調査

資質・能力

○地理的な技能
「実践的な社会的スキルとしての GIS活用」
○地理的知識と地理的理解
「地球規模（グローバル）の自然システム，社会・経済システムの知識と理解」

持続可能な社会づくりに求められる地理科目

○地理的な見方や考え方
「空間概念を捉える力」
○態度
「地域，国家的及び国際的な課題解決を模索する献身的努力」

（「ルツェルン宣言における『持続可能な開発を実行する地理的能力』による」）

新必履修科目（案）

「地理総合」（仮称）

(1) 地図と地理情報システムの活用　GIS

⇒以降の地理学習等の基盤となるよう，地理を学ぶ意義を確認するとともに，地図や地理情報システム（GIS）などに関わる汎用的な地理的技能を身に付ける。

(2) 国際理解と国際協力　グローバル化

ア　多様な生活・文化と国際理解
⇒自然と社会・経済システムの調和を図った，世界の多様性のある生活・文化について理解する。

イ　地球的な諸課題と国際協力
⇒地球規模の諸課題とその解決に向けた国際協力の在り方について考察する。

(3) 防災と持続可能な社会の構築

ア　自然環境と災害対応　防災
⇒日本国内や地域の自然環境と自然災害との関わりや，そこでの防災対策について考察する。

イ　生活圏の調査と持続可能な社会づくり　ESD
⇒生活圏の課題を，観察や調査・見学等を取り入れた授業を通じて捉え，持続可能な社会づくりのための改善，解決策を探究する。

＜参考＞
・中学校地理的分野において充実した地誌学習により獲得した知識等を活用し，国内外の諸課題等を主題的に扱う。
・本科目履修後の地理歴史科の科目や他教科において活用できる，GISをはじめとする地理的な技能や，世界のグローバル化，持続可能な社会づくりといった考え方を身に付けさせる。

【参考】　現行学習指導要領解説に示された「地理的な見方や考え方」

ⓐ どこに，どのようなものが，どのように広がっているのか，諸事象を位置や空間的な広がりとのかかわりでとらえ，地理的事象として見いだすこと。
ⓑ また，そうした地理的事象にはどのような空間的な規則性や傾向性がみられるのか，地理的事象を距離や空間的な配置に留意してとらえること。
ⓒ そうした地理的事象がなぜそこでそのようにみられるのか，また，なぜそのように分布したり移り変わったりするのか，地理的事象やその空間的な配置，秩序などを成り立たせている背景や要因を，地域という枠組みの中で，地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかかわりに着目して追究し，とらえること。
ⓓ そうした地理的事象は，そこでしかみられないのか，他の地域にもみられるのか，諸地域を比較し関連付けて，地域的特色を一般的共通性と地方的特殊性の視点から追究し，とらえること。
ⓔ そうした地理的事象がみられるところは，どのようなより大きな地域に属し含まれているのか，逆にどのようなより小さな地域から構成されているのか，大小様々な地域が部分と全体とを構成する関係で重層的になっていることを踏まえて地域的特色をとらえ，考えること。
ⓕ そのような地理的事象はその地域でいつごろからみられたのか，これから先もみられるのか，地域の変容をとらえ，地域の課題や将来像について考えること。

【参考】　『地理教育国際憲章』(1992年8 月制定)で示された「地理学研究の中心的概念」

「地理学者は，常に次のような問いかけを発している。 それは，どこにあるのか。それは，どのような状態か。それは，なぜそこにあるのか。それは，どのように起こったのか。それは，どのような影響をもっているのか。それは，人間と自然環境の相互便益のために，どのように対処されるべきか。
これらの発問に対する答えを求めるには，地表上での位置，状況，関係，空間的分布，あるいは現象の相違，といった要素を調べることが必要となる。
現況の説明は，歴史並びに現代の双方の資料からなされる。また，現在の特徴的傾向は，将来の発展の可能性を示す指標として理解される。
地理学研究の中心的概念は，「**位置と分布**」,「**場所**」,「**人間と自然環境との相互依存関係**」,「**空間的相互依存作用**」,「**地域**」，である。」

1)位置と分布

人間と場所は，この地表面においてそれぞれ異なる絶対的位置と相対的位置とを有している。これらの位置は，財と人間と情報の流れで結び合わされており，地表面上での分布とパターンを説明してくれる。また，人間と場所の位置に関する知識は，地元，地域，国家，地球上でのそれぞれの相互依存関係を理解するための前提条件となる。

2)場所

場所は，自然的にも人文的にも多様な特徴を示す。自然的特徴に含まれるものには，地形，土壌，気候，水，植生，動物，人間生活，などがある。また，人間は，それぞれの信念や哲学にしたがい，文化，集落，社会・経済システム，あるいは生活様式などを発展させる。場所の自然的特徴に関する知識，あるいは人々の環境への関心や行為は，人間と場所の相互依存関係を理解するための基礎となる。

3)人間と自然環境との相互依存関係

人間は，自然環境を多様に利用する。また，様々な働きかけにより，多様な文化景観を造り出す。人間は，一方で自然諸要素の影響を受けるとともに，他方で，身の周りの環境を調和の取れた景観に変えたり，ときには不調和な景観へと変化させる。つまり，空間における複雑な相互依存関係への理解が，環境計画や環境管理，あるいは環境保護にとって大変重要なものとなる。

4)空間的相互依存作用

資源は，一般にこの地球上に不均等に分布する。資源の自給自足ができる国など存在しえない。また，場所は，資源や情報を交換するために，運輸・通信システムにより結ばれている。さらに，空間的相互依存作用に立ち入ってみると，財や情報の交換，あるいは人口移動による人々の協力を理解することにつながる。

また，空間的相互依存作用を探求することは，現代の問題を浮き彫りにしたり，地域的，国家的あるいは国際的な相互依存作用や協力関係の改善へのアイデアを提起したり，あるいは，貧困と富裕並びに人類の福祉への深い理解をもたらしてくれる。

5)地域

ある地域は，固有の要素により特徴づけられた一定の空間的ひろがりをもつ区域である。例えば，政治的要素からみれば，国家や都市が，自然的要素では，気候や植生地帯が，さらに社会・経済的要素からは，開発の進んだ国々と低開発諸国などが区分される。地域は，空間的にも時間的にも躍動的なものである。地域は，研究のための，あるいは変貌をとげる環境としての基礎単位として取り扱うことができる。

地理学者は，地域をいろいろと異なった規模，つまり地域社会，国家，大陸，地球規模で研究の対象とする。地域のもつ統合的システムは，一つの地球的生態系の概念へと導かれる。地球システムの中の異なる地域の構造と発展過程の理解は，人々の地域的，国家的アイデンティティ及び国際的立場を明らかにするための基礎となる。

〔国際地理学連合・地理教育委員会編(公式文書日本語翻訳版)　中山修一(地理教育委員会委員)訳〕

「地理総合（仮称）」において重視する思考力等と授業イメージ（たたき台案）

平成２８年１月２５日
教育課程部会
社会・地理歴史・公民ワーキンググループ
資料8－1

項目構成（案）

「地理総合」（仮称）

- (1) 地図と地理情報システムの活用
- (2) 国際理解と国際協力
  - ア生活・文化の多様性と国際理解
  - イ地球的な諸課題と国際協力
- (3) 防災と持続可能な社会の構築
  - ア自然環境と災害対応
  - イ生活圏の調査と持続可能な社会づくり

重視する思考力，判断力，表現力等

- ○地図上に表された事象と実際のできごとを関連付けて考察する力
- ○考察したことを，目的に応じて地図等にまとめ，効果的に説明する力

- ○自然環境等に対応した世界の多様な生活・文化の意味や意義を理解し，自他の文化を尊重しつつ考察する力
- ○考察したことを，資料を踏まえて説明する力

- ○地球規模で見られる諸課題（環境，資源・ｴﾈﾙｷﾞｰ，人口，食料，住居・都市，民族・領土等）について多面的・多角的に考察する力
- ○考察したことを，根拠を明確にして議論する力

- ○国内各地の自然環境とそこで現れる災害の傾向性を関連付けて課題を把握し，多面的・多角的に考察する力
- ○考察したことを，資料にまとめて説明する力

- ○生活圏に見られる課題について，その背景や要因等の分析に基づき，様々な解決策を吟味し，構想する力
- ○構想したことを，実現可能性を指標に議論する力

「地理的な見方や考え方」を用いた授業設計

問いを重視した授業展開

問い と授業展開のイメージ

（⇒詳細は，別紙資料参照）

㋐ なぜ出生率と，人口増加率は一致しないのだろう

出生率の高い地域が必ずしも人口増加率が高いわけではないことを，GISを用いて階級区分図の重ね合せを行い，その地域的な要因を考察する。　〔他に，統計資料の分析，主題図の作成などの主題を設定〕

㋑ どうしてアンデスでは，湖上で生活する人々がいるのだろう

アンデス高地の地形や気候等の自然環境の特徴から，湖上で生活する理由を見出し，生活の多様性とその必然性について考察させ，異文化理解を図る。　〔他に，衣・食や宗教などの主題〕

㋒ なぜウガンダでは，生産性で劣る陸稲が生産されているのだろう

食料難に悩むウガンダに対して，どのような手段で食料増産を促すための支援が可能なのか。支援で直面した課題とその要因を探り，国際協力の在り方について考察する。〔他に，地球温暖化対策などの主題〕

㋓ ハザードマップを読んで，私たちの町の防災について考えよう

複数のハザードマップから地域の自然環境の特徴を読み取り，その情報を比較，関連付けて，各地域で想定される災害を考え，地域ならではの対応策を考察する。〔他に，災害復旧・復興，都市計画などの主題〕

㋔ フードデザート解消のため，どのようなまちづくりを目指すべきか

中心業務地区の衰退等を背景に，今後どのようなまちづくりを行うべきか，地域調査により収集した諸資料を分析し，分析結果を踏まえた生活圏の在るべき姿を構想する。　〔他に，環境対策などの主題〕

＜補足；「学習の系統性，段階性」＞

- (1)の学習によって培った地理的な技能を，後の(2)，(3)の学習や他教科・科目等の学習において実践的に活用する。
- (2)と(3)のそれぞれ「ア」で把握，考察したことを基に，「イ」で議論，構想（展望）する。
- (2)で学んだ各地の諸課題への対応策を，(3)の生活圏の諸課題解決の構想に生かす。(Think Globally, Act Locally)